

HELLO



ANIMAL HOSPITAL

NO. 1

手術をお受けになる前に

はじめに

あなたの動物が全身麻酔をかけ外科手術を受けるということで、飼い主様においては、不安や戸惑いを感じてられている事かと存じます。

すべてにおいて100%という状況はありませんが、近年の獣医学、医学の進歩に伴い手術や麻酔の危険率は大変低くなっています。

あなたの動物の手術を安全に行うためには、飼い主様の御協力も必要となります。

手術前の検査の必要性について

手術をするにあたり全身麻酔をかけますので、危険性がないかとその動物の年齢や体調にあわせて、必要な検査を行います。主な検査としては、身体検査、臨床検査（血液検査、生化学検査、尿検査、糞便検査）、レントゲン検査、心電図検査などです。

麻酔の安全性について

動物に行う麻酔は人間の行う方法と全く変わらず、高度な技術と、確実な監視のもとに行われています。麻酔下での動物の心臓は、心電図、心音、呼吸数、血圧など自動監視装置によってモニターされます。

手術および麻酔について

手術や麻酔についてご不安やご質問がございましたら、獣医師とご相談ください。

※外科担当医からのお知らせ

- 血液検査、術中の管理、注射のために一部腕の毛を刈らせて頂くことが御座います事を、予めご了承下さい。
- 手術部位は、感染予防のため広範囲にわたって毛を刈らせて頂きます。また、皮膚を消毒致しますので手術部位周囲の毛が、消毒液で着色される恐れも御座います事を、予めご了承下さい。
- 麻酔については、まず吸入麻酔のための前投与（注射麻酔）が与えられ、その後に吸入麻酔が行われます。前投与により動物は痛みや恐怖を感じることなく手術が行えるようになります。
- 麻酔の管理については、心電図および血圧計、呼吸監視装置、パルスオキシメーター（動脈血酸素飽和度測定器）、体温などにより監視されます。

Hello Animal Hospital

雌の避妊手術について

どんな手術なのか？

- ・全身麻酔をかけて開腹し、左右の卵巣と子宮を摘出する手術です。
- ・通常は、1泊2日の入院となります。
- ・手術を行うことで、永久に妊娠することが出来なくなります。
- ・将来起こりうる病気（子宮蓄膿症、卵巣腫瘍等）や性ホルモンに関連した病気を予防できます。
- ・発情に伴う体調の変化や偽妊娠を避けることができます。
- ・糖尿病の発症率が低下します。

いつ手術すべきなのか？

- ・初めての発情前（生後6か月くらい）が理想的です。この時期に行う事で乳腺腫瘍の発生率が低下することがわかっています。獣医師と相談しましょう。
- ・発情期や体調不良の時は避けましょう。

雄の避妊手術について

どんな手術なのか？

- ・全身麻酔をかけて皮膚を切開し、左右の精巣(睪丸)を摘出する手術です。
- ・通常は、日帰りの手術となりますが、睪丸が腹腔内の場合は1泊2日の入院となります。
- ・手術を行うことで、永久に妊娠させることが出来なくなります。
- ・将来起こりうる病気（精巣腫瘍、前立腺肥大等）や性ホルモンに関連した病気を予防できます。
- ・性ホルモンに関連した問題行動（スプレー行動、攻撃性等）を抑制します。

いつ手術すべきなのか？

- ・初めての発情前（生後6か月くらい）が理想的です。獣医師と相談しましょう。
- ・体調不良の時は避けましょう。

注意事項について

- ・全身麻酔で手術を行うので、麻酔や手術のリスクがあります。
- ・アレルギー体質、特異体質、持病のある動物は、全身麻酔のリスクが高くなります。
- ・全身麻酔時に、短頭種(パグ・フレンチブルドッグ等)では呼吸器の問題が起こりやすいです。
- ・手術後太りやすくなります。
- ・手術後は出産ができなくなります。
- ・手術後にホルモン失調による尿失禁を起こすおそれがあります。
- ・雌の場合、子宮卵巣の断端に肉芽腫が発生するおそれがあります。